

令和8年度～令和17年度  
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

# 本島中部

策定主体： 中部地区さとうきび増産プロジェクト会議

## 地域において目指す姿

沖縄本島中部地域においては、収穫面積の減少に歯止めをかけるため、地域計画と連動した遊休農地の解消や農地の流動化により規模拡大、経営規模拡大を志向する農家に対して農地中間管理事業の活用による利用集積を図るとともに、老朽化した収穫機械の更新や機能向上、ビレットプランタ等植付機やドローンの導入による適期の植付けと肥培管理の実施、受託業者等のオペレータ育成に努める。

また、農業用水の確保や防風・防潮林等の生産基盤の整備と併せ、優良品種の導入普及、バガスや緑肥等を活用した土づくりを推進するとともに、認定農業者や生産法人の育成、受託業者等による機械化一貫作業体系を推進する。

なお、さとうきびの増産を図るためには、生産者、農協、製糖工場、市町村、県関係機関等が一体となった生産体制の整備を図ることが重要であり、関係機関の連携強化により目標達成に向けた取り組みを推進する。

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
R6年度策定時	53	54	279	386	7.3	5.3	5.3	5.6	3,848	2,907	14,991	21,747	
R8年度	目標	55	52	280	387	7.3	5.3	5.3	5.6	4,015	2,756	14,840	21,611
R9年度	目標	56	51	280	387	7.3	5.3	5.3	5.6	4,088	2,703	14,840	21,631
R10年度	目標	58	49	280	387	7.3	5.3	5.4	5.7	4,234	2,597	15,120	21,951
R17年度	目標	68	38	282	388	7.5	5.5	5.6	5.9	5,100	2,090	15,792	22,982

(2) 担い手育成目標

	区分	認定農業者			受託組織			大規模生産農家		
		認定農業者	受託組織	大規模生産農家	認定農業者	受託組織	大規模生産農家	認定農業者	受託組織	大規模生産農家
R6年度策定時		12	8	10						
R8年度	目標	12	8	10						
R9年度	目標	12	8	10						
R10年度	目標	13	9	10						
R17年度	目標	15	11	10						

(3) その他地域で独自に設定する目標

		-	-	-	-
R6年度策定時		-	-	-	-
R8年度	目標	-	-	-	-
R9年度	目標	-	-	-	-
R10年度	目標	-	-	-	-
R17年度	目標	-	-	-	-

(4) 分析と評価

① 2期計画で挙げた課題

**<農地、基盤整備>**

- ・遊休農地の解消と農地の利用集積の促進
- ・水不足地域における水源の確保、既存のかんがい施設の有効利用のため各地区で水源の確認と採水方法、水運搬方法の協議

**<担い手、労働力、機械化一貫体系>**

- ・機械化に対応するための農地集積を困難にしている各地区課題の整理
- ・農作業受委託を促進させるための仕組みづくり
- ・地域に適した農業機械の導入と活用
- ・農家の高齢化と受託作業等不足による適期肥培管理作業の遅れ
- ・担い手の確保
- ・ハーベスタ収穫時の株踏み潰しによる欠株の発生

**<栽培技術、品種>**

- ・地域に求められる品種の普及と奨励
- ・緑肥、堆肥を活用した土づくりの推進

**<農業共済>**

- ・農業共済への加入促進

② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

#### <農地、基盤整備>

- ・さとうきび生産者圃場植付調査（OCR調査）時に、さとうきび農家へ今後の生産意向及び受託作業実施の有無について確認し、農地の貸し借りの推進と受託作業者の掘り起こしを行った
- ・読谷村瀬名波地区の農地整備（区画整理、畑地かんがい）事業の実施（工期：R2～R8、令和5年度までの進捗率28.3%）

#### <担い手、労働力、機械化一貫体系>

- ・収穫機械や肥培管理機の導入により機械化一貫作業体系を推進した
- ・就労継続支援事業所と連携した植付け作業（農福連携を推進）
- ・株出管理作業に係る委託料の一部をうるま市さとうきび協議会から補助し、適期作業の実施と委託作業の定着を図った
- ・けん引式作業機及びドローンによる薬剤散布の現地検討会を実施した
- ・新規さとうきび農家を対象とした就農定着支援した
- ・機械収穫に適したほ場づくりの推進及び収穫オペレータへの注意喚起を目的とした講習会の実施した

#### <栽培技術、品種>

- ・雑草や病虫害防除、苗の重要性等に関する栽培講習会を実施した
- ・かん水による増収効果の実証と普及指導、点滴チューブによるかん水方法を検討した
- ・かん水未整備地区における高吸水性保水材の利用を検討した
- ・農家自身で健全苗を確保することを目的として、講習会等で指導した
- ・島内産の牛糞堆肥を利用した展示圃の設置した

#### <農業共済>

- ・OCR調査、各講習会の場を活用し、農家へ直接説明しながら加入推進を図った

③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

(改善した課題)

- ・農業用水源の整備やかんがい施設整備等の計画的な生産基盤の整備
- ・防風防潮林の整備推進、生産者への整備の重要性の普及啓発
- ・地域の実態に即した収穫機械の導入及び収穫体系の確立
- ・収穫機械及び肥培管理機等の導入による機械化一貫作業体系の確立
- ・病害抵抗性、多収性品種の育成、普及拡大、栽培地域に応じた品種構成
- ・ドローンの受委託作業を実施している事例があり、一部の農家でドローンによる受託作業の実施を検討している

④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

- ・農地利用集積の促進（離農や農地転用によるさとうきび面積の減少）
- ・オペレータの確保と作業受委託体制の整備（オペレータ不足）
- ・早期株出管理、植付時期の適正化等、基本的な管理作業による単収向上（高齢化やオペレータ不足による適期管理の遅れ）
- ・農業共済制度の周知と加入促進（加入率が依然として低い状況）

⑤ 新たに生じた課題

- ・ハーベスタ機械の老朽化
- ・関係機関の連携と情報発信の強化

⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

沖縄本島中部地域のさとうきび生産は、農業従事者の高齢化、都市化の進展による収穫面積の減少が進む中、ハーベスタや株出管理機の導入を中心とした省力化が進み、単収は維持している。しかし、収穫面積の減少により生産量は減少傾向にある。

今後は、市町村の地域計画の基、地域の話合いに参加し、離農や規模縮小する農家の畑を規模拡大を希望する農家へスムーズに引き継ぎ、農地の集積・集約化する。省力化の維持のため収穫機械の計画的な更新及びスマート機器を導入し、担い手の確保、オペレータ育成を引き続き行いながら植付更新や適期肥培管理及び地力の増進によりさらなる単収向上を図る必要がある。

(5) 地域重点事項（地域独自で取り組んでいる重点事項を記載）

牛糞堆肥投入実証展示圃  
土壌処理剤実証展示圃  
株出管理講習会・中耕ローター実演会

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論すべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

**1 経営基盤の強化**

- 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保
- 農業共済制度（収入保険・畑作物共済）への加入促進

**2 生産基盤の強化**

- 気象災害に強い生産基盤の整備
- 機械化一貫体系の確立
- 地力の増進

**3 技術対策**

- 病虫害防除
- 台風・干ばつ等対策
- 優良品種の選択・普及

**4 その他（自由記述）**

- 関係機関の連携と情報発信の強化
- 
- 

※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

## 目標達成に向けた取組計画

### I 経営基盤の強化

#### ① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

##### 【現状】

さとうきび生産農家戸数は、平成27年の1,835戸から令和6年は842戸まで減少しており、収穫面積も平成27年の615haから令和6年の386haまで減少している。農家1戸当たりの収穫面積は僅かに増加傾向にあり、令和6年で0.5haである。

【生産者数、収穫面積、1戸当たりの栽培面積の推移】 (戸、ha)

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
生産農家戸数	1,835	1,545	1,430	1,337	1,245	1,155	1,132	1,078	962	842
収穫面積	615	602	566	519	440	450	448	463	435	386
1戸当たりの収穫面積	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5

##### 【課題】

- ・ 農家戸数及び収穫面積の減少
- ・ 離農や規模縮小する農家の現状把握
- ・ オペレータ、受託作業者の確保と育成
- ・ さとうきび専業で生計を成り立たせることが困難な農家が多い

##### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 離農や規模縮小する農家、規模拡大を希望する農家の把握（市町村、さとうきび協議会、普及、JA）
- ・ さとうきび生産農家の機械保有状況の把握、受託作業者の掘り起こし（JA、さとうきび協議会、普及）
- ・ オペレータ、受託作業者の育成（さとうきび協議会、普及、JA）
- ・ 耕作放棄地解消関連事業の活用（市町村、製糖工場）
- ・ さとうきび生産者の育成（さとうきび協議会、普及、JA、工場、市町村）
- ・ 兼業農家、複合経営農家の実態把握（普及、さとうきび協議会、JA、工場、市町村）

【計画】

<短期計画> ※今年度または来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・さとうきび農家に対する生産意向、機械保有状況を調査し、栽培面積の確保及び受委託作業の掘り起こしを行う。
- ・オペレータ研修や機械実演会を通して生産法人等、オペレータの育成を実施する
- ・生産法人の実態、生産過大の把握による各種生産対策（メンテナンス事業、地力増強対策）の実施
- ・市町村の地域計画の基、地域の話合いに参加し、さとうきび農家へスムーズに引き継ぎ、農地の集積・集約化を支援する
- ・若手農業者等への定期巡回指導の実施
- ・兼業農家、複合経営農家における成功事例のまとめ
- ・機械価格が上昇していることから、国と県の補助事業を活用し、生産法人等の経営を支援する（畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業及び  
沖縄さとうきび安定生産確立対策事業等の活用）

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・耕作放棄地からさとうきび農地への転換（耕作放棄地解消関連事業の活用）
- ・兼業農家、複合経営農家における成功事例の周知

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### I 経営基盤の強化

#### ② 農業保険の加入促進

##### 【現状】

台風、干ばつ等の気象災害が多発する本県において、さとうきび生産農家の経営安定を図るため、農業共済団体、市町村等関係機関と連携し、農業共済制度の普及・啓発、加入促進を図っているが、近年、農業保険加入戸数の減少が続いており、掛金納入が期限内に行えず加入解除となる事例も発生している。また、農家には収入保険制度に対する認識不足が見られるため、制度の理解促進が課題となっている。この状況を受け、品目別経営安定対策要件申請（OCR調査）等の機会を活用し、関係団体と連携しながら共済加入の促進と制度の普及啓発に取り組んでいる。

	H27 (28年産)	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)
加入戸数(戸)	461	475	459	410	311	286	261	239	220	195
戸数引受率(%)	27.4	31.5	31.4	27.3	24.8	24.5	23.9	23.6	23.7	20.4
引受面積(ha)	236.1	254.0	245.9	218.5	144.3	147.9	131.4	133.3	132.9	133.0
面積引受率(%)	33.9	42.8	38.5	37.0	24.8	27.1	26.2	31.9	30.5	30.2

### 【課題】

- ・ 農家の共済制度に対する理解が十分でなく、一層の制度周知が必要
- ・ 収入保険制度の周知が必要
- ・ 高齢者や小規模農家は加入意欲が低く、共済制度加入への関心が薄い
- ・ 大規模農家では掛金の負担が大きいため、加入率の低下が懸念される

### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 共済制度や収入保険のパンフレットを作成し、各種会議でPRを実施した（共済組合）
- ・ 品目別経営安定対策要件申請（OCR調査）や各種栽培講習会と併せた加入促進（共済組合、JA、きび協、普及）

### 【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 共済制度への理解を得るため、引き続き集落、生産組合単位での共済制度説明会を開催し、引受推進に努める
- ・ 共済加入率の増加に向けて、パンフレットを活用し、製糖終了報告会やさとうきび生産組合の会議等に合わせて、関係機関と連携し加入を推進する

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 栽培管理改善による単収の向上で収益を増やし、共済加入への意欲を高める
- ・ 農業共済のパンフレットやチラシを活用し、加入の斡旋を継続して行う

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ① 気象災害に強い生産基盤の整備

##### 【現状】

本地域においては、台風の襲来や干ばつによる被害が毎年のように発生している。安定した農業生産を確保するために水資源やかんがい施設、農地防風林・保安林の整備が今後も必要となる。

##### 【課題】

- ・土地基盤整備や畑地かんがい未整備地区における干ばつ及び潮害の発生
- ・かんがい未整備地区において、高齢の生産者のかん水作業が十分に実施出来ない

##### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・防風林による被害軽減効果についてPRし、防風防潮林の整備を進める（市町村）
- ・干ばつ対策会議の設置・開催（市町村、さとうきび協議会）
- ・既存かん水機材・かんがい施設の利用促進（さとうきび協議会、製糖工場、普及）
- ・セーフティネット事業による干ばつ対策の助成（さとうきび協議会）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・防風林の日啓蒙活動の実施
- ・台風襲来後や梅雨明け直後の早期かん水の推進を、栽培講習会、OCR調査、ほ場巡回時等に直接農家へ呼びかける。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・防風林の日啓蒙活動の継続
- ・計画的な基盤整備の着実な推進
- ・さとうきび増産基金等活用し、各地域の実情に合わせたかん水資材等の導入を促す

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ② 機械化一貫体系の確立

##### 【現状】

さとうきび生産農家の高齢化や担い手不足により、手刈り収穫が減少し、ハーベスタを用いた収穫機械の導入が進んでいる。近年では、老朽化したハーベスタも多く見られ、機械の故障により適期収穫が遅れている。さらには収穫後の適期植付や株出管理の遅れを招き、農作業全体のスムーズな進行に支障をきたしている。

一方で、自動操舵トラクタの導入やビレットプランタを導入し、効率的に管理作業を行っている事例がある。

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
ハーベスタ 稼働台数	32	39	46	41	34	42	41	41	40	36
ハーベスタ 収穫面積	221	262	269	272	229	240	254	293	286	268
ハーベスタ 収穫率(面積)	36.0	43.4	47.6	52.4	52.0	53.2	56.8	64.3	65.7	69.4

【課題】

- ・ハーベスタの老朽化により計画通りの収穫作業ができない地域がある
- ・労働力不足による株出し管理作業の遅れ
- ・スマート農業に対応したオペレータの育成

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・機械導入方針の策定
- ・機械導入及びハーベスタ機能向上事業の活用に向けた検討（市町村、JA、生産法人）
- ・オペレータ育成に向けた講習会（農業機械士会、さとうきび協議会、JA、県）
- ・受託作業者の掘り起こしと育成（さとうきび協議会、JA、普及）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・機械導入方針の策定（市町村）
- ・機械導入及びハーベスタ機能向上事業活用の検討
- ・機械士協議会と連携した受託作業者の技能向上
- ・さとうきび農家に対し機械保有状況を聞き取り、あわせて受託作業者の掘り起こしを行う

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・機械導入事業及びハーベスタ機能向上事業活用の検討

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

- ・採苗用ハーベスタの導入

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ③ 地力の増進

##### 【現状】

一部の農家は製糖工場から出るバガス及びフィルターケーキ、畜産農家から出る牛糞堆肥、緑肥を活用しながら土づくりを実施している。しかし、土づくりに対する理解不足や堆肥を撒く手段がない農家が多いことから、堆肥の活用が進んでいない。

##### 【課題】

- ・有機物の畑地還元不足による地力の低下
- ・牛糞等を活用した堆肥散布が遅れている
- ・土づくりに対する理解不足

##### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・土づくりおよび耕畜連携の推進（市町村、普及、JA、さとうきび協議会）
- ・フィルターケーキ活用による植付時の覆土や補植苗作りの技術普及（製糖工場、普及、JA）
- ・生産対策を活用した心土破碎の実施（さとうきび協議会）
- ・土づくりに関する栽培講習会の実施（さとうきび協議会、普及、JA）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・生産対策を活用し、新植時に堆肥等有機物投入、植付前の緑肥栽培の推進
- ・生産対策を活用し心土破碎の実施
- ・土づくりに関する栽培講習会の実施

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・堆肥散布機の導入による堆肥や土壌改良資材の散布
- ・堆肥の品質向上策の検討や実証ほを設置することで、堆肥の利用促進

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ① 病虫害防除

##### 【現状】

- ・黒穂病、バッタ類等が毎年のように発生している。
- ・ガイダー、野そ、ヨトウ類の防除について、各生産組合から薬剤配布を行い、一斉防除を行っている。しかし、管理が行き届いていない畑や、その周辺雑草から被害が拡大するケースが散見される。
- ・新植時に黒腐病による発芽不良が発生している。

##### 【課題】

- ・適期防除の周知及び指導による病虫害発生防止の徹底
- ・現地情報の早期共有化による一斉防除の強化
- ・黒穂病の多発生地域においては、耐性品種の導入が必要
- ・健全苗の確保

##### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・農家に対し講習会やほ場巡回時に、病虫害防除の徹底を指導（さとうきび協議会、普及、JA、工場）
- ・関係機関で現地情報を早期に共有できる体制づくりを行う（さとうきび協議会、JA、工場、普及）
- ・黒穂病や黒腐病多発生地域の特定（さとうきび協議会、普及、JA、工場）
- ・耐病性品種等を考慮した地域の品種構成の検討（市町村、さとうきび協議会、普及、JA、工場）
- ・農家自身で健全苗を確保する意識の向上（さとうきび協議会、普及、JA、工場）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 農家に対し講習会やほ場巡回時に、病虫害防除の徹底を指導する
- ・ 関係機関で現地情報を早期に共有できる体制づくりを行う
- ・ 黒腐病多発地域の特定
- ・ 耐病性品種等を考慮した地域の品種構成
- ・ 農家自身で健全苗を確保することを目的として、講習会等で指導する

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 耐病性品種等を考慮した地域の品種構成

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ② 台風・干ばつ対策

##### 【現状】

- ・台風襲来時には、倒伏や葉の裂傷により生長が抑えられる
- ・うるま市宮城島は、島の頂部にさとうきび畑が団地化している。台風時の強風や潮害対策として、生産組合による防風防潮林帯の維持管理が行われている
- ・台風襲来後に少雨傾向の場合、特にかん水施設が未整備地区において潮害が発生している
- ・少雨、干ばつ傾向が強い年には、かん水施設が未整備の地区で単収が低い
- ・農家の高齢化により、ホースによるかん水は労力的に難しい
- ・かん水施設が整備されているが、利用が少ない地域がある

##### 【課題】

- ・台風による倒伏被害の対策
- ・干ばつ傾向前の早期かん水周知の徹底
- ・かん水設備が整備されていない地域への対策

##### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・かん水の周知徹底（さとうきび協議会、普及、JA、工場、市町村）
- ・かん水設備が整備されていない地域において、牛糞堆肥等の投入による保水性の向上、耐干ばつ性の高い品種の導入を検討（市町村、普及、さとうきび協議会、JA、工場）
- ・深植え栽培技術導入の検討（さとうきび協議会、普及、JA、工場）

**【計画】**

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・台風襲来後や梅雨明け直後の早期かん水の推進を、栽培講習会、ほ場巡回時やOCR調査時等の場で直接農家へ呼びかける
- ・耐干ばつ性の高い品種（農林21号、25号、28号など）構成の検討
- ・牛糞堆肥等を投入した展示ほの設置と現地検討会の実施

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・深植え栽培技術導入の検討

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

③ 優良品種の選択・普及

【現状】

- ・風折し易いF177が淘汰され、高糖性のNiF8が主品種となっている。本地域は株出栽培の比率が高く、単収が低いため、収穫後の株出萌芽性に優れ、茎数が多く多収タイプの品種が求められてきた。
- ・多回数株出が多く、品種の更新が遅い。

単位：%

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
農林8号	16.4	23.1	21.7	18.5	15.7	14.6	12.3	9.3	7.6	6.5
農林15号	10.4	10.8	6.0	5.6	5.7	5.5	5.3	5.8	6.2	6
農林17号	3.7	4.0	3.7	2.7	1.8	1.5	1.3	0.9	—	—
農林20号	2.6	2.0	1.7	1.6	0.8	0.7	0.4	0.4	—	—
農林21号	6.8	5.8	5.7	4.8	4.6	4.9	4.7	4.1	3.2	2.3
農林22号	2.2	2.6	3.3	3.3	3.2	2.9	2.5	1.7	1.4	1.8
農林25号	—	—	—	—	10.4	8.6	8.5	5.8	5.1	3.9
農林27号	—	—	—	—	9.0	13.7	14.5	16.0	16.3	16
農林28号	—	—	—	—	8.0	7.3	6.9	8.2	9.4	7.3
農林29号	—	—	—	—	3.2	3.3	4.2	6.0	8.3	11
RK97-14	—	—	—	—	5.5	5.5	5.1	4.3	3.7	2.3

### 【課題】

- ・多回数株出し栽培面積が多く、品種の更新が進みにくい
- ・多回数株出し栽培で、黒穂病の発生の多い地域に適した品種の導入
- ・原苗ほ設置契約者による適正な肥培管理
- ・干ばつ常習地域における品種構成

### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・低単収となっている多回数株出し栽培からの適正な更新（普及、さとうきび協議会、JA、工場）
- ・株出し多収で黒穂病の抵抗性があるRK10-29の導入の検討（市町村、さとうきび協議会、JA、工場、普及）
- ・原苗ほ設置契約者の選定と、その後の栽培管理指導（市町村、さとうきび協議会、JA、工場、普及）
- ・干ばつ常習地域における品種構成の検討と決定（地域の生産者、市町村、さとうきび協議会、普及、JA、工場）

### 【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・原苗ほ設置契約者は、市町村を中心に関係機関との意見交換の場を設けて決定
- ・原苗ほ設置後は、関係機関による巡回により栽培指導を徹底
- ・RK10-29の展示圃を設置し、現地検討会で農家からの意見を得る
- ・干ばつ常習地域における生産者との意見交換の実施と品種構成の決定

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・原苗ほ設置契約者は、市町村を中心に関係機関との意見交換の場を設けて決定
- ・原苗ほ設置後は、関係機関による巡回により栽培指導を徹底

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 4 関係機関の連携と情報発信の強化

#### 【現状】

- ・ 高齢化や人口減少の一途、担い手の確保と育成には情報発信が不可欠であり、あらゆる手段で情報発信することが重要となっている。
- ・ さとうきびに関する問い合わせ先が分かりにくいとの声も聞かれ、これまで農家をはじめ広く効果的な情報提供を十分に行っていなかった。
- ・ 関係機関各々の取組も共有し、効率的かつ効果的な情報発信を図る必要がある。

#### 【課題】

- ・ 関係機関相互による業務内容の把握と連携
- ・ 分かりやすい情報媒体の作成と活用

#### 【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 関係機関の業務内容と役割分担の明確化（普及、さとうきび協議会、JA、工場、市町村、共済組合）
- ・ 関係機関による定例会議の実施（普及、さとうきび協議会）
- ・ 発信材料の整理と見える化（普及、さとうきび協議会、JA、工場、市町村、共済組合）
- ・ 発信方法の検討と実践（普及、さとうきび協議会、JA、工場、市町村、共済組合）

**【計画】**

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 関係機関の業務内容と役割分担を明確にした資料の作成
- ・ きび協、JA、製糖工場、普及による定例会議の実施と結果の共有
- ・ JA及び市町村担当者向け勉強会の実施
- ・ 関係機関内部におけるSNS等を活用した早期の情報発信
- ・ 発信材料の整理と見える化

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

—

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況

※令和7年度に3期目計画を立てる際は、右側の「今年度の具体的な取組計画」を記入。

重点項目：農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
市町村					・農業委員会、増プロ構成機関等と連携した地域計画樹立に向けた話し合いの充実強化（話し合い日程の共有等）	・収穫面積の維持
普及センター					・栽培講習会、機械実演会の実施と展示圃の設置 ・重点農家（地域リーダー、若手農家）の指導	・農家の単収向上 ・若手農家の資質向上 ・地域リーダーの育成による波及効果
JA					・OCR調査時に受託作業の有無の意向を確認する	・受託業者の掘り起こし、規模拡大・縮小農家の把握
各地区製糖工場					・遊休農地解消、栽培支援（ゆがふ農場） ・栽培講習会、実演会、展示圃設置等への協力 ・OCR調査の協力 ・農業機械士協議会の活動協力	・収穫面積の維持、拡大 ・単収向上による生産量増 ・生産量予想の精度向上
各地区きび協					・栽培講習会、機械実演会の実施と展示圃の設置	・農家の単収向上

重点項目：機械化一貫体系の確立

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
市町村					・機械収穫に適した展示圃の設置と周知 ・地域受託業者の把握	・機械化一貫体系の確立 ・委託希望農家への斡旋
普及センター					・オペレータ、受託作業農家の経営指導	・オペレータ、受託作業農家の経営基盤強化
JA					・事業導入計画	・ハーベスタの導入
各地区製糖工場					・受託作業のサポート	・受託作業の拡大（植付、株出管理等）
各地区きび協					・オペレータ、受託業者の育成に向けた研修会の実施	・オペレータ、受託業者の技能向上

重点項目： 関係機関の連携と情報発信の強化

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
市町村					<ul style="list-style-type: none"> <li>・きび協が主催する勉強会への参加</li> <li>・地元ラジオ等を活用した情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質向上と関係機関との連携強化</li> <li>・早期の情報発信</li> </ul>
普及センター					<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成機関等の取り組み内容の把握</li> <li>・JA、製糖工場、きび協との定期的な会議の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見える化した内容を資料にまとめる</li> <li>・重点農家育成体制の強化、適期の講習会や展示圃の実施</li> </ul>
JA					<ul style="list-style-type: none"> <li>・きび協が主催する勉強会への参加</li> <li>・支店購買窓口での資料配布等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携強化と資質向上</li> <li>・早期の情報発信</li> </ul>
各地区製糖工場					<ul style="list-style-type: none"> <li>・製糖工場の公式LINEを活用した、情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期の情報発信</li> </ul>
各地区きび協					<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村やJAのきび担当者向け勉強会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者同士の連携強化と課題の共有、担当者の資質向上</li> </ul>

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

（単位：千円）

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
R6補正・3次公募	地力増進対策	3,369	2,086	-
-	-	-	-	-

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
	発動なし	-	-	-

【実証・研究事業（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【機械導入（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	県費
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【市町村単独事業】

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

(参考情報①)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

本地域は県土面積228,105haのうち、28,341ha(12.4%)を占めるが、嘉手納飛行場や普天間飛行場等の広大な米軍施設等の基地面積6,660ha(中部地域の23.5%)が含まれ、土地利用上大きな制約となっている。令和3年における耕地面積は2,100haで基地面積より少なく、さらにさとうきび栽培は都市化が進むなか、448ha(耕地面積の21%)と限られた面積で栽培されて、生産農家の高齢化と減少により収穫面積は年々減少傾向にある。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状  
 沖縄本島中部地区は、都市化や担い手農家の高齢化などにより収穫面積が減少傾向にあり、令和6/7年期は収穫面積386ha、単収5.6t/10a、生産量21,747tとなっている。また、ほ場条件は基盤整備の遅れなどから小規模で30a未満の零細な経営規模の生産者が多く、機械化が進まない要因となっている。さらに、高齢化による労働不足により適期の肥培管理が難しく、かん水設備が未整備な地域においては、梅雨明け後の干ばつによる生育不良がみられ、単収低下の一因となっている。

【近年の作物別作付面積の動向】

(1) 作物別作付け面積の動向

(ha)

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	耕地面積	作付面積	荒廃農地面積	さとうきび	かんしょ	田	野菜	牧草地	樹園地
H17	3,031	-	-	1,111	82	-	-	-	-
H18	3,036	-	-	1,097	104	-	-	-	-
H19	2,993	-	-	1,034	-	-	-	-	-
H20	2,967	-	-	1,036	-	-	-	-	-
H21	2,950	-	-	992	-	-	-	-	-
H22	2,875	-	-	924	-	-	-	-	-
H23	2,840	-	-	864	-	-	-	-	-
H24	2,807	-	-	827	-	-	-	-	-
H25	2,763	-	-	842	-	-	-	-	-
H26	2,686	-	-	641	-	-	-	-	-
H27	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H29	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H30	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R元	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R6	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	159	83	682	924	7.4	4.5	5.1	5.4	11,822	3,763	34,712	50,297	14.4
H18	187	104	625	916	8.0	5.1	5.5	5.9	14,881	5,324	34,245	54,450	14.5
H19	181	101	582	864	7.2	5.1	5.6	5.9	12,943	5,216	32,625	50,784	14.9
H20	170	114	574	858	8.0	6.2	6.9	7.0	13,534	7,102	39,856	60,492	14.9
H21	177	92	574	843	6.9	4.8	5.3	5.6	12,175	4,398	30,344	46,917	14.9
H22	149	100	552	801	6.7	5.2	5.5	5.7	10,018	5,234	30,331	45,583	14.6
H23	122	97	512	731	4.2	3.7	3.5	3.6	5,139	3,530	17,757	26,426	14.3
H24	133	120	468	721	5.1	3.1	3.6	3.8	6,804	3,747	17,031	27,582	13.1
H25	106	64	454	624	5.4	4.1	4.3	4.5	5,746	2,610	19,664	28,020	14.7
H26	147	84	431	662	5.7	3.7	4.4	4.6	8,383	3,089	18,809	30,281	14.3
H27	104	73	439	616	6.1	4.5	4.8	5.0	6,321	3,311	21,150	30,782	13.9
H28	119	59	424	602	7.2	5.3	5.5	5.9	8,652	3,188	23,702	35,542	14.8
H29	99	49	418	566	6.9	4.8	5.0	5.3	6,890	2,381	21,026	30,297	14.0
H30	83	53	382	518	6.3	4.6	4.4	4.7	5,270	2,481	16,859	24,610	13.3
R元	75	40	325	440	6.1	4.1	4.2	4.8	4,568	1,644	13,631	19,843	15.1
R2	88	52	309	449	6.5	4.7	4.9	5.2	5,781	2,475	15,403	23,659	14.9
R3	75	50	323	448	6.6	5.3	4.8	5.2	4,993	2,634	15,570	23,197	15.1
R4	86	50	327	463	7.1	5.2	4.9	5.3	6,076	2,559	16,081	24,716	14.1
R5	66	47	322	435	5.2	4.1	3.8	4.1	3,455	1,912	12,253	17,620	14.7
R6	53	54	279	386	7.3	5.3	5.3	5.6	3,848	2,097	14,991	20,936	14.3

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
H17	-	-	-	-	-	-	0
H18	-	-	-	-	-	-	0
H19	12	28	153	384	1,217		1,794
H20	11	25	134	375	1,271		1,816
H21	8	29	139	391	1,362		1,929
H22	9	28	127	359	1,409		1,932
H23	8	29	108	364	1,483		1,992
H24	11	39	118	344	1,521		2,033
H25	9	32	97	301	1,421		1,860
H26	-	-	-	-	-	-	0
H27	12	35	91	332	607	928	2,005
H28	10	33	89	268	605	805	1,810
H29	14	36	83	238	613	695	1,679
H30	11	30	65	187	536	640	1,469
R元	8	30	59	161	506	594	1,358
R2	10	28	61	160	469	600	1,328
R3	10	26	58	143	406	623	1,266
R4	8	25	51	131	377	654	1,246
R5	5	26	57	114	315	582	1,099
R6	6	27	53	110	308	560	1,064

【経営（収穫）規模別農家戸数】

	100a未満	100～300a 未満	300～500a 未満	500a以上	合計
H17	2,798	98	8	4	2,908
H18	2,751	87	8	2	2,848
H19	2,429	87	7	3	2,526
H20	2,485	93	7	6	2,591
H21	2,340	90	11	4	2,445
H22	2,207	101	6	5	2,319
H23	2,063	99	5	4	2,171
H24	1,932	101	8	2	2,043
H25	1,718	102	6	2	1,828
H26	1,665	100	10	1	1,776
H27	1,682	130	14	9	1,835
H28	1,439	94	8	4	1,545
H29	1,311	103	8	8	1,430
H30	1,246	82	5	4	1,337
R元	1,145	92	7	1	1,245
R2	1,057	85	11	2	1,155
R3	1,023	95	9	5	1,132
R4	994	74	6	4	1,078
R5	871	74	14	3	962
R6	762	65	10	5	842

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	43.1	65	12.2	8.3
H18	51.7	69	12.4	8.9
H19	49.2	73	12.8	8.8
H20	60.6	85	12.8	8.4
H21	48.0	78	12.1	10.3
H22	41.7	73	11.9	10.0
H23	25.1	60	11.6	11.3
H24	24.0	55	11.0	10.0
H25	26.8	70	11.7	10.4
H26	32.9	63	12.3	11.6
H27	74.6	96	11.0	9.5
H28	83.5	122	12.1	9.8
H29	71.3	87	11.8	10.2
H30	60.2	100	10.9	11.2
R元	50.4	89	12.0	10.8
R2	59.6	92	12.0	10.2
R3	58.0	94	12.0	11.3
R4	56.1	90	12.0	10.8
R5	46.6	88	11.9	7.7
R6	54.2	87	12.3	11.4

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	9	8	1	有	J A 中部地区さとうきび対策室 読谷村 1個人 はんざ農産 宇座農機組合 農NATURE 中城村 結農産 うるま市 3個人 宮島農産、 伊計オートリーファーム ゆがふ農場	対策室は中部のJ A 各支店からのハーベスタ収穫要望に応じて対策室及び生産法人のハーベスタ収穫作業日程を調整し、その他受託作業も行う。  ゆがふ農場は全茎式プランタ、ビレットプランタによる植付作業 他6生産法人はハーベスタ収穫、トラクタ作業については各々が所有するアタッチメントによって異なる。

【作業委託料金】

作業名		料金 (坪当り)	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫		132円	—	J A 中部地区さとうきび対策室
植付		160円	肥料、農薬は農家が手配	(株) 農NATURE
株 出 管 理	平均培土	33円	—	J A 中部地区さとうきび対策室
	プラソイラ	33円	—	J A 中部地区さとうきび対策室
	根切中耕	33円	—	J A 中部地区さとうきび対策室
防除		0	—	—
その他		0	—	—

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R7	地下ダム	与勝地下ダム	47.0% (R5)	Ⅱ型	90円/ト 45円/ト	月額500円を支払って使用する者は45円/ト。 それ以外は90円/ト	与勝地区の地下ダム、陽水騎乗、ファームポンド等の基幹的農業水利施設が県営事業造成後、経年劣化で低減を生じて農業用水の安定供給に支障をきたしているため、機能保全対策工事の実施。 受益面積：225ha 工期：令和3年～8年度
	ダム	石川ダム		Ⅱ、Ⅲ型	Ⅱ型は30円/ト Ⅲ型は100L/10円	Ⅱ型は、経常賦課金4円/㎡、水管理賦課金5千円/基	長浜地区、石川地区のダム、揚水機場、ファームポンド等の経年劣化に対して機能保全対策工事の実施。 受益面積：512ha 工期：平成31年度～令和7年度
		長浜ダム		Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ型	Ⅰ、Ⅱ型（さとうきび栽培で使用する場合）は8円/㎡ Ⅲ型は100L/10円	Ⅰ、Ⅱ型は面積及び栽培品目に応じた料金	長浜川第二地区は整備後20年を経てかんがいの施設の経年劣化を生じているため、再整備の実施。 受益面積：99.5ha 工期：令和5年度～令和8年度
	ため池	上原貯水池 (宮城島上原土地改良区)		Ⅱ型	80円/ト 20円/ト	年間100トン以下は80円/トン。 100トン以上は月額500円を支払って20円/トン。 ※水圧が弱い場合、スプリンクラーが使用できない。	宮城島上原地区の貯水池、揚水機場、ファームポンド等の経年劣化に対して機能保全対策工事の実施。
	その他	-		-	-	-	-

(参考情報⑤)

【農業保険加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数(戸)	1,759	956	776	776	776	776	-
加入戸数(戸)	384	195	188	195	200	215	-
戸数引受率(%)	21.8	20.4	24.2	25.1	25.8	27.7	-
対象面積(ha)	604	433.4	422.5	422.5	422.5	422.5	-
引受面積(ha)	179.7	133	108.9	110	115	130	-
面積引受率(%)	29.8	30.7	25.8	26.0	27.2	30.8	-
支払金額(千円)	11,515,657	484,225	-	-	-	-	-

【収入保険制度への加入目標】

	H30	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数(戸)	1094	776	776	776	776	776	-
加入戸数(戸)	2	11	12	13	14	17	-
引受面積(ha)	2.1	19.4	20	20	21	22	-
面積加入率(%)	0.3	4.5	4.7	4.7	5.0	5.2	-

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植	春植	株出
H17	17%	9%	74%
H18	20%	11%	68%
H19	21%	12%	67%
H20	20%	13%	67%
H21	21%	11%	68%
H22	19%	12%	69%
H23	17%	13%	70%
H24	18%	17%	65%
H25	17%	10%	73%
H26	22%	13%	65%
H27	17%	12%	71%
H28	20%	10%	70%
H29	17%	9%	74%
H30	16%	10%	74%
R元	17%	9%	74%
R2	20%	12%	69%
R3	17%	11%	72%
R4	19%	11%	71%
R5	15%	11%	74%
R6	14%	14%	72%
地域目標	34%	9%	57%

【株出回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)							平均回数
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回以上	
H17	169	136	100	75	73	45	84	2.46
H18	172	118	98	71	62	39	65	2.45
H19	128	114	119	82	58	33	47	2.63
H20	158	85	89	89	63	41	50	2.63
H21	154	106	59	65	67	46	77	2.46
H22	158	98	71	39	39	47	100	2.17
H23	149	85	68	44	25	26	115	1.91
H24	153	87	52	42	27	15	93	1.87
H25	157	89	53	39	25	15	76	1.91
H26	116	105	69	34	21	18	68	2.05
H27	133	85	76	42	22	13	68	2.02
H28	111	91	54	44	21	14	89	1.93
H29	140	79	59	34	30	18	58	2.08
H30	117	82	47	36	21	22	57	2.10
R元	104	79	41	27	19	16	39	2.10
R2	97	68	43	24	17	15	46	2.04
R3	124	64	40	26	17	9	41	1.92
R4	127	71	37	23	16	11	42	1.89
R5	107	73	44	24	16	12	46	1.97
R6	97	64	35	22	15	8	38	1.94
R17	98	64	35	33	15	8	38	2.01

(参考情報⑦)

【近年の品種別収穫面積の推移】

作型	夏植						春植						株出						合計					
	Ni22	NiH25	Ni27	Ni29	RK 97-14	その他	Ni22	NiH25	Ni27	Ni29	RK 97-14	その他	Ni22	NiH25	Ni27	Ni29	RK 97-14	その他	Ni22	NiH25	Ni27	Ni29	RK 97-14	その他
H17	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	199	0	0	0	0	0	102	0	0	0	0	0	717	0	0	0	0	0	1,018
H19	0	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	625	0	0	0	0	0	916
H20	0	0	0	0	0	181	0	0	0	0	0	101	0	0	0	0	0	864	0	0	0	0	0	1,146
H21	0	0	0	0	0	170	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	574	0	0	0	0	0	858
H22	0	0	0	0	0	177	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	574	0	0	0	0	0	843
H23	0	0	0	0	0	149	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	552	0	0	0	0	0	801
H24	0	0	0	0	0	122	0	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	512	0	0	0	0	0	731
H25	1	1	0	0	0	131	3	6	0	0	0	111	12	2	0	0	0	454	16	9	0	0	0	696
H26	1	37	3	0	0	106	0	10	0	0	0	74	5	22	1	0	0	403	6	69	4	0	0	583
H27	3	24	2	1	0	74	1	11	1	1	0	59	10	58	3	1	0	367	14	93	6	3	0	500
H28	2	28	7	0	0	82	2	12	1	2	0	42	25	62	8	4	0	325	29	102	16	6	0	449
H29	3	15	15	1	4	61	1	8	5	4	2	29	15	60	18	6	1	318	19	83	38	11	7	408
H30	2	9	11	1	6	54	2	7	6	4	3	32	13	49	23	7	5	285	17	65	40	12	14	371
R元	2	4	11	3	5	50	1	3	4	2	6	24	11	38	25	9	13	229	14	45	40	14	24	303
R2	2	7	20	2	4	54	2	3	9	4	5	30	9	29	32	9	17	214	13	39	61	15	26	298
R3	1	7	16	2	2	47	1	2	6	5	4	32	10	29	43	12	18	211	12	38	65	19	24	290
R4	0	2	24	4	2	54	0	1	7	7	4	31	8	23	42	16	15	223	8	26	73	27	21	308
R5	0	2	13	3	1	47	0	2	8	11	2	24	6	19	49	22	14	212	6	23	70	36	17	283
R6	1	2	17	4	0	29	2	2	9	18	1	22	4	10	38	22	8	197	7	14	64	44	9	248